

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	千葉県館山市立神余小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	0.5	0.5	1	1	0	5	9
児童数	3	6	5	6	8	4	0	32	

II 研究の概要

1. 研究主題

地域を見つめ、地域とともに生きる子どもの育成
～確かな学力が身につく指導の工夫（かがやき学習を通して）～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

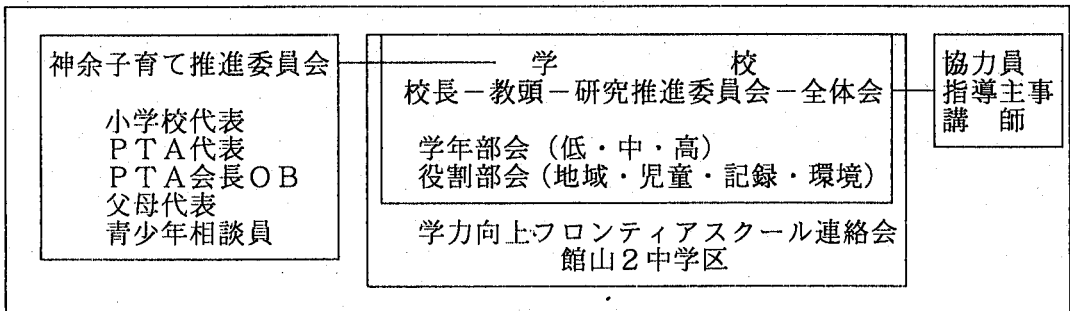
○1・2年生：生活科
○3～6年生：かがやき学習（総合的な学習の時間）
※学校として、当該教科に関する研究実績があるため

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>「地域を見つめ、地域とともに生きる子どもの育成」 ～確かな学力を身につく指導の工夫（かがやき学習を通して）～</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研究推進組織の設立・研究計画の立案 ② 児童に身につけさせたい「学力」・「確かな学力」について共通理解 ③ 「確かな学力」を身につける指導過程の検討と実践 ④ 各教科・領域との関連を図った「かがやき学習」のあり方について検討し、実践 ⑤ 公開研究会開催 ⑥ 研究のまとめと次年度の研究計画の立案
--------	--

平成16年度	<p>「地域を見つめ、地域とともに生きる子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研究計画の検討 ② これまでの実践に基づき、児童に身につけさせたい「学力」について検討 ③ 「確かな学力」を身につける指導過程の見直しと実践 ④ 各教科・領域との重層的な関連を図った「かがやき学習」のあり方と複式学級におけるかがやき学習のあり方について検討し、実践 ⑤ 「評価」・「支援」の具体的内容・方法の検討と実践 ⑥ 研究のまとめと次年度の研究計画の立案
--------	---

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 児童は、地域に出かけて観察したり、地域の方々から聞き取り調査をしたり、パソコンを活用した調べ学習などの様々な追求の仕方ができ、意欲的に取り組んだ。また、調べたことをまとめたり、相手にわかりやすく伝えたりするなど表現力の高まりも見られてきた。各教科・領域への学習意欲だけでなく、言語による表現や計算など基礎・基本の一部の向上も感じ取れた。これは、本校の考える「確かな学力」の向上と考えられる。
- ・ 教師が学力面からの「かがやき学習」と各教科・領域との関連を意識して指導に臨むようになってきた。どんな児童に育てたいかという目的意識をはっきり持ち、そのために、児童一人一人に身につけさせたい力を、どの場面でもどのように関連づけ、どう支援・指導していくべきか、今まで以上に考えるようになった。さらに、指導の反省を生かし、次年度の指導に向けての計画や見通しを常に持つようになり、今まで以上に児童一人一人に応じた意図的・計画的な指導へと変容してきてきた。

以下、研究の概要について記載する。

《 研究主題 》

地域を見つめ、地域とともに生きる子どもの育成

— 確かな学力が身につく指導の工夫 (かがやき学習を通して) —

1 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

「新しい時代を創造し、たくましく生きる基本を身につけた子どもの育成」

さまざまな今日的課題を克服し、新しい時代をたくましく生き抜くための基本を身につけた児童を育成するために、まずは自分の足元、つまり自分の地域「神余」を見つめることが必要である。

自分の地域は身近であり、見る・聞く・触るなどの直接体験や生きた教材にこのことを繰り返すことができる。児童にとって身近にあること、自分とのかかわり意識されにくいものであるが、それを見つめ直すことによって、自分のかかわりに気づき、その意味の深さや重要性がわかる。こうして、児童は自分の地域「神余」を、児童なりに理解する。そのうえで、他の地域と比較したり、もっと大きな世界を見つめたりすることで、そこに存在する課題を発見し、自分なりに改善しようとする力が培われる。この力こそ、「たくましく生きる基本」の力である。家庭や地域は世の中の縮図であり、その中で学んだことは広い社会や世界で生きるための基礎として大きな力となるはずである。課題を解決するために児童が地域全体からさまざまなことを学び、自分なりの夢を持ち、さらに自分の地域「神余」に対する理想を持つようになってほしいと願う。

神余地区の人口は約700人と決して多くはないが、児童の教育には十分な人的環境であり、また地域の自然や文化・伝統・産業等には、物的環境としても価値あるものが豊富にある。自分の地域「神余」を学習の基盤とし、地域を見つめ、地域とともに生きる児童の育成をめざす教育を推進することが、本校のめざす子ども像「体をきたえる子ども・仲良く助け合う子ども・学び合う子ども・理想(夢)を求める子ども」の育成となり、学校教育目標の具現化へとつながる。

(2) 児童の実態から

本校の児童は、穏やかで明るく素直であり、全校児童32名が互いをよく知り、仲が良い。しかし、子どもたちの生活領域は狭く、学校内の限られた人間関係の中で日常生活しているため、多様な人々との交流の機会に恵まれず、そのかかわり方も未熟である。また、豊かな自然環境の中で生活しているが、地域の自然や文化に触れる機会が十分とは言えず、郷土「神余」の自然を体感しているとは言えない。

そこで、郷土「神余」の自然や文化を今まで以上に体感できるようにし、様々な人との交流を通して、多様な考え方や生き方に触れ、磨き合いを更に深めていく必要がある。そのためには、地域の人的・物的財産を活用した教育を学校と地域が丸となって推進することが必要である。

(3) 今日的教育課題から

世界の情勢は刻一刻と変化し、社会は大きく変貌している。このめまぐるしく変化する現代社会を生き抜くためには、「生きる力」を身につけた児童を育成する必要がある。

そのために、社会の縮図である地域や家庭と学校がそれぞれの力を有効に働かせ、連携した教育を推進することが必要である。地域・家庭・学校が一体となって「生きる力」を身につけさせることは、これから進むであろう広い社会で生きるための基礎として、大きな力となってくると考える。

(4) 「かがやき学習の時間」の課題から

これまでのかがやき学習の時間に行われた学習は、その学習や活動そのものが単独で行われている場合が多かった。このことを学力の視点から考えた場合、これでは学力を十分に伸ばしきれなかったという課題が残る。これはかがやき学習の時間と各教科・領域を学力の視点から関連づけ指導を行っていなかったからだと考える。そこで、両者を関連づけた学習をすることによって、それが両輪となって連携し合い、その相乗効果によって学力は身につけてくると考えた。

(5) 研究の経過から

本校は小規模校であり、少人数での学習が日常的に行われている。また、かがやき学習と生活科の研究を通して、「神余子育て暦」の開発・活用、学習パートナーの開発等を実践してきた。更に、新しい時代をたくましく生きぬく力を持ち、郷土「神余」に誇りをもった児童に育ててほしいという保護者の願いから、地域の方々独自の活動として、子育て推進組織が発足し、子育て活動が展開されている。

そこで、昨年度までに行った地域・家庭・学校が一体となった教育体制づくりの成果を、更に発展させ、「確かな学力」を身につけ、「生きる力」を持った児童を育成していくこととした。

※ 学習パートナー 平成14年度研究紀要参照

2 研究の目標

児童に「確かな学力」を身につけさせるため、学力の視点で「かがやき学習」と各教科・領域との関連を強化することの有効性を明らかにする。

※「かがやき学習」とは

本校において、3～6年の総合的な学習の時間に行われる学習、1・2年の生活科の学習及び情報教育や国際理解教育（学活・裁量等）として行われる学習をひとまとめにした学習の名称である。

3 研究仮説

児童の実態をふまえて児童一人一人に「身につけさせたい力」を明らかにし、その力に視点をあてて、「かがやき学習」と各教科・領域の関連を強化すれば、学力が向上するだろう。

(1) 神余小が考える「学力」について

「学力」は極めて総合的なものである。また、「基礎・基本」も様々なものを包含している。本校では、それらの一部分を取り上げ、そこに焦点をあてるのではなく、あくまでも、児童そのもの、丸ごとの子どもが持つ能力の総体を「学力」としてとらえ、実践を積み重ねていくこととした。学校で行うすべての教育活動はもちろん、地域・家庭・学校が連携した教育活動によっても、学力が向上すると考える。

※神余小が考える「確かな学力」

「確かな学力」・・・実生活の中で使うこと・生かすことのできる多様な個性の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能や思考力、表現力、判断力、自ら学ぶ意欲、学習習慣・態度などの総体

(2) 「かがやき学習」と各教科・領域との関連について

本校では、かがやき学習の時間に行われる学習と各教科・領域の学習が連携し合いながら、その学習を深め、それらの相乗効果により、「かがやき学習」で「身につけさせたい力」が確かなものとなり、児童が「確かな学力」を獲得していくと考える。

かがやき学習の時間に行われる学習と各教科・領域の学習が両輪のごとく存在し、その両輪をつなぐ「シャフト」がものの見方・考え方・学び方であったり、題材・素材であったりするのである。そして、この車輪に載っているものは児童そのものであり、児童は自分でハンドルを握り、実際のコースを自分の力で進んでいくのである。その「シャフト」の回転を補助するのが教師や学習パートナーである。児童は時にはコースを間違えることもあるが、自分のペー

スで、自分の力で進んでいく。力強く進むことによって学力が向上し、生きる力が身についてくる。

そこで、各教科・領域での学習が「かがやき学習」とどのように関連しているか、逆に、「かがやき学習」が各教科・領域の学習とどのように関連しているかを明らかにする。そのうえで、各教科・領域で培った力を「かがやき学習」で発揮したり、活用したりすることで、その力が発展・強化する。また同時に、「かがやき学習」で培った力を各教科・領域で発揮したり、活用したりすることで、その力が発展・強化すると考え、「かがやき学習」と各教科・領域との関連を十分に意識し、意図的・計画的に指導していく。前述の「シャフト」を太くすることを「関連の強化」と考え、「シャフト」をどれだけ太くできるかが今年度の研究の重点である。

また、「生活科における各教科・領域との関連を図った指導」とは、「生活科から他教科・領域への発展的な学習指導」または「他教科・領域の学習内容を生活科の学習に生かす学習指導」と考える。児童の願いに沿い、かつ発展的・関連的に学習することで、学習効果が向上する場を設定し、一人一人に応じた支援をしていく。そうすることで、「自立の基礎」を養うだけでなく、各教科・領域の学力も向上する。

(3) 「かがやき学習」で「身につけさせたい力」(評価の観点)について

【A 課題を設定する力】

・身の回りの事象から問題を見つけ、その解決を自分の課題として認識できる力

【B 問題を解決する力】

・問題を解決するための「考え方やものの見方」
・技能や知識などを身につけるための方法などの「学び方」
・その学習をすることによって得た「知識・技能」

【C 主体的創造的な態度】

・問題を解決する力を活用し、課題を解決するための主体的創造的な態度や実践力

【D 自己の生き方】

・よりよく生きようとする考え方・態度など

4 研究内容

○ 子どもが主体的に学ぶ教材や題材の開発を行う。

・興味・関心の側面から
・教科・領域との関連から(横断的・総合的側面から)
・地域や学校の課題から

○ 教材や題材の目標分析を行う。

・きたえるべき思考力や判断力
・きたえるべき学び方や方法
・既習の知識や考え方の活用
・新しい気づきや発見等

○ 子どもが主体的に学ぶ学習過程の改善を行う。

・課題のとらえ方(設定の場や仕方)
・課題追求の仕方 体験活動(調査・観察・実験・コンピューター活用等)
人材活用(学習パートナーの活用)

・まとめ方(図や発表の仕方等)

○ 評価を指導・支援に生かす

・診断的評価(学力の視点からの実態調査)
・自己評価(振り返り)
・評価基準(目標分析とタイアップ)

(1) 「かがやき学習」の教材の開発と学習パートナーについて

これまでの研究では、地域に根ざした教材を開発し、「地域を見つめ、地域とともに生きる子ども」の育成を目指してきた。その成果を引き継ぎ、年間指導計画などに地域教材の単元を位置づける。地域に根ざした教材は児童の学習意欲を向上させるだけでなく、問題意識も高め、その解決のための活動も直接的なものにすることができる。また、学習パートナーの協力を積極的に呼びかけ、「かがやき学習」だけでなく、各教科・領域での学習や活動にも参加してもらう。

なお、その場合には指導者としてだけでなく、児童と一緒に学習したり、教師の協力者であったりしてもらうことにより、児童の活動や思考の幅を広げ、学習を深めることができる。

(2) 「かがやき学習」と各教科・領域の関連表」の作成について

「かがやき学習」と各教科・領域との関連を学力の視点から明らかにするために、一覧表を作成する。

具体的には、「かがやき学習」と各教科・領域との関連するものの見方・考え方・学び方や学習内容・学習素材を学習や活動の流れに合わせて表記することで、指導の視点となり、「かがやき学習」だけでなく各教科・領域においても今まで以上に教師の意識が高まり、児童の学習も「かがやき学習」単独の学習ではなく、各学習との関連を意識し、意欲的になると考える。

※「かがやき学習と各教科・領域の関連表」参照

(3) 評価について

① 評価項目について

「かがやき学習」の活動のねらいと児童一人一人に「身につけさせたい力」を明確にすることで、児童一人一人に応じた教師の支援ができる。そのためにテーマ全体を通して、活動のねらいと児童の実態に即した評価項目を設定し、個人内評価を行い、更なる活動への意欲化を図っていく。

具体的には、活動案中に、児童一人一人に「身につけさせたい力」とそのための支援や具体的評価項目を明示する。そして、毎時間の観察とともに、児童の学習や活動を記録したものにより評価をする。その評価により、児童一人一人に応じた支援をする。以上のように、児童一人一人をしっかり見つけた評価と支援を継続的に行っていくことが、学力の向上へとつながっていくと考える。

② 「振り返り」(自己評価)について

活動を行っただけでは学習としての価値は低い。そこで、教師や友だち等の評価による外的な刺激とともに、自己の変容を自分自身が認識し、その内省から自分自身への内的な刺激による意欲は学習の質を高める。そして、その自己評価を継続的に行い、自分を客観的に見つめることができるようにしていく。しかし、これだけでは自分の変容を感覚的にしかつかめない。

そこで、自分の学習や活動の足跡をファイルに保存し、このファイルをポートフォリオとして活用する。こうすることで児童はファイルをめくる度に、自分の活動を振り返ることができ、今の自分と過去の自分を比較し、自分の変容を確認できる。さらに、ファイルに保存してあるものは、自分の学習資料であり、学習が行き詰まったり、活動が挫折しそうになったり、ヒントがほしかったりする時に役に立つ。自分の足跡が自分自身を支え、自分自身の向上のために活用できるのである。

また、学習パートナーからの言葉かけも児童にとって「生きた評価」になる。指導者は学習パートナーと事前打ち合わせを十分に行い、学習の内容やねらいを確認し、そのねらいに基づき個々の児童に応じた言葉かけをしてもらえらるようしておく。学習パートナーの言葉が、自分自身を評価するひとつの尺度になり、児童にとって自己評価のための材料となる。

③ 「振り返り」への支援について

各児童のファイルに教師の言葉を記入したり、個別にアドバイスをしたりすることで、自己評価では気づかなかった自己の成長や向上、もっと高めたい力、活動のめあてや方向等をはっきりさせていく。メタ認知力が十分に発達していない児童には、教師の評価と支援や児童相互にかわり方を大切にしていきたい。そのためには、活動のめあてや反省などについて友だちと話し合うような磨き合いの場を設定したり、教師が学級全体へアドバイスをしたりしていく必要がある。

なお、学習後には、学習パートナーから児童一人一人の様子や感想等について話を伺い、教師が行う児童の評価と支援に活用する。また、児童が自分なりに表現したのも、児童が新たなものの見方・考え方を身につけた結果の現れと考え、教師が行う評価のひとつにする。

※実践例等については、別紙を参照

2. 今後の課題

- ・ 「確かな学力」を高めるために、「かがやき学習」と「各教科・領域」との関連について、どんな力がどのように関連しているのかを見極め、その関連を授業の中にどう位置づけていくかが重要である。そのために、我々教師は日々研究と修養を積み、教師としての力量を向上させなければならぬ。
- ・ 「確かな学力」を高めるための「かがやき学習」と「各教科・領域」との関連について、主にその学年内で考えてきた。これは、目の前の児童の実態を十分に考慮した活動計画であり、「確かな学力」を十分向上させ得るが、さらに、学年の発達段階を考慮した重層的な「かがやき学習」と「各教科・領域」との関連を明らかにしていく必要がある。
- ・ 次年度から本校の学級編制が、完全複式となる可能性が極めて高くなった。

複式学級での学習形態は、2つの学年が同一の教室で、1担任の指導のもと異学習を行う。単純に考えても、担任が1学年につける時間は半分になる。つまり、子ども側から見ると1時間の内、半分は自習となる。このような状況下でも、一人一人の児童が「確かな学力」を身につけることができる方策を検討していかなければならない

Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

学力は極めて総合的なものであり、「基礎・基本」も包含していると考えられる。本校ではその一部を取り上げ、そこに焦点を当てるのではなく、あくまでも、児童そのもの、丸ごとの子どもが持つ能力の総体を「学力」としてとらえた。学校で行う教育活動はもちろん、地域・家庭・学校が連携した教育活動によっても、学力は向上すると考える。

また、本校は小規模校であるために、学年・学級の変容を統計処理することに無理があり、逆に小規模校の長所を生かして、児童一人一人の成長をきめ細やかに見取り、一人一人の成長を形成的にとらえることができる。

したがって、日常的に児童を観察したり、変容を見取ったりすることで、児童の姿そのものの成長を形成的に評価している。

Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ① ホームページによる研究成果及び日常の学校の様子等の公開
- ② 学習パートナーの授業への参加と日常的な授業参観の呼びかけ
- ③ 公開研究会による研究成果の公開（平成15年10月23日（木））
- ④ 他小学校との合同授業（理科）による授業研究
 - ・ 館山市立館山小学校第6学年 理科
 - ・ 館山市立豊房小学校第5学年 理科
 - ・ 館山市立西岬小学校及び館山市立豊房小学校第1, 2学年 生活科
- ⑤ 館山第二中学校区学力向上フロンティアスクール連絡会による研究協議

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

1 テーマ

ぼく わたしの“神余生き生き宣言”

2 活動のねらい

〔A 課題を設定する力〕

- ・一人一人が自分の健康について課題を持つことができる。

〔B 問題を解決する力〕

- ・自分に合った方法を選択・活用しながら「学習パートナー」に聞いたり、友だちと話し合ったり、相談することができる。
- ・自分の興味・関心に基づいて、自分の体や健康についての情報の集め方を身につける。
- ・地域でとれた野菜に手間をかけて調理するスローフードのよさや、栄養価がわかる。
- ・「食事と健康」は関連があることや、間食の摂り方や糖分の摂り過ぎに注意する必要があることがわかる。
- ・人体模型や動物の間接などの観察や看護師さんからの話を聞き、骨や筋肉の動きがわかる。
- ・「神余走ろう会」の方の話からジョギングを続けることは、身体的・精神的にもよいことや、適度な運動を継続することのよさがわかる。
- ・健康の保持・増進には、食事・運動・生活リズムが基本となり、相互に関連していることに気づく。

〔C 主体的創造的な態度〕

- ・自分が取り組む内容を「健康宣言」として表現し、他へ広めることができる。

〔D 自己の生き方〕

- ・地域の方々と健康について考える活動を通して、いろいろな考え方や実践にふれ、自分の生活を振り返ることができる。
- ・自分の課題を追求する活動を通して、自分も生涯にわたり健康でありたいという願いを持つことができる。
- ・学習の過程で身につけた健康に関する知識や技能が、自分に合った方法で行動化・日常化することができる。

〔コミュニケーション能力〕

- ・地域の方に話しの要点がわかるように伝えたり、接したりする中でその場に合った応答ができる。

3 活動の経過

「1学期の活動の様子」(23/65時間まで)

○児童の活動のあゆみ ☆各教科・領域との関連とそれにかかわる支援

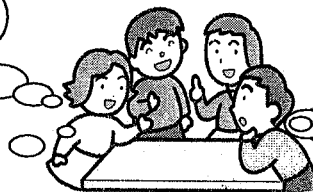
5月上旬

いよいよ楽しみにしていた大房合宿だ。へえー健康調査をやるんだあ。家での生活とは環境が変わるから、自分の生活リズムを知っておくことが大切なんだな。

今までは自分の生活リズムなんて気にしたことはなかったなあ……。

○私は、睡眠時間が少なかったなあ。

○ぼくの平熱は36度だったんだな。



○ぼくは、たまに朝ごはんを食べてこないことがあるんだよ。

☆ 3・4年保健「育ちゆく体とわたし」に関連

大房合宿の事前指導で養護教諭から渡された健康チェックカードをきっかけに、自分の体のリズムや生活リズムに関心が向いていった。今までの自分の生活リズムを振り返り話し合う中で、「健康な生活」に興味・関心を向けさせていった。

5月 合宿終了後 <課題を決めよう ③>

○ どんな学習をしていこうか。
「合宿中は元気に過ごせてよかったな。もっと“健康”について学習していきたいな。」

○ 家の人に相談した。
「健康って病気をしないことだけじゃないんだな。家族といつまでも元気に暮らしたいな。」

<調べる方法を考えよう ③>

※Pは学習パートナー

○ “健康”をテーマとしてウェビングをする際には「身近なことから想像してごらん。」と声をかけ連想が広がるようにした。「いろいろなことをインターネットで調べたい。」「お年寄りに元気な理由を聞いてみたい。」「ヨモギを摘んでお団子を作ったよ。食べられる植物が神余にはもっといっぱいあるはず。調べに行こうよ。」等、調べる方法を話し合った。

—— ☆4年理科「季節といきもの」

4年かがやき学習「1年生を迎えよう」に関連

「1年生を迎える会」では春の植物調べで見つけたヨモギで「ヨモギ団子」を地域の方にふるまった。この経験が生き、地域の自然や植物にも目が向いた。

5月下旬～ <調べる計画を立てよう ②>活動の経過

○ 課題を決める・調べる方法を考える・調べる計画を立てる・調べる・まとめるまでの学習の流れのおよその計画を立てた。どこに、誰に、何を、どのように聞く、確かめる等して集めた情報をまとめるまでの大まかな計画を立てた。

—— ☆4年道徳「礼儀」に関連

学習パートナーとのコミュニケーションをとる場合に注意すべきことや、礼儀について話し合った。

<調べていこう part I 家族の健康法について調べよう ⑤>

○ 興味のある健康法について調べた。
・家の人へのインタビュー
・インターネットの活用、フィールド取材、本、新聞、学習パートナーへのインタビュー。
○ 家族の健康への願いを知った。
・それぞれの健康法には、家族の「いつまでも健康でありたい。」という願いがこめられていることに気づいた。

—— ☆4国語（話すこと・聞くこと・話し合うこと）に関連

相手や目的に応じた適切な言葉遣いを選び、家族に取材することを事前に指導し、取材の成果があがるようにした。また、筋道を立てて話したり立てて聞いたり、話したりできるように質問事項をメモするなど関連を図った。

※個々のテーマと活動の詳細は次頁より・・・

6月～

A児の活動 元気なおじいちゃん

- 祖父の一日の生活の様子を調べ、自分の一日の生活リズムと比較する。
- 生活の特徴をつかむ。
 - ・睡眠時間は私より2時間多いな。
 - ・食事の時間も2時間も長いよ。
 - ・昼食の後にお昼寝をしているよ。これって体にはよいのかな。
 - ・朝食前から畑仕事をしているよ。食事と睡眠以外の時間は「仕事」をしている時間が長いな。
 - ・こんなに畑仕事が多くて疲れはたまらないのかな。
- 疑問に思ったことをおじいちゃんに聞く。
 - ・友だちと一緒にカラオケや旅行に行っているからストレスはたまらないよ。
 - ・野菜の生長が一番の楽しみだな。マイペースで働くようにしているから、仕事でつらいと思ったことはないよ。
- 次の課題を持つ。

おじいちゃん的生活リズムに健康の秘密がありそうだな。昼寝の効果って本当にあるの

B児の活動 お兄ちゃんはスポーツマン

- 自分の一日の生活リズムを調べる。
 - ・朝ごはんを食べてこない日があるんだよ。
 - ・外遊びの時間がこんなに少なかったんだ。
- 憧れている兄のスポーツ歴を調べる。
- 兄から柔道部の練習メニューを取材する。
- 練習メニューを自分の生活に取り入れてみる。
 - ・腹筋運動は家の中でもできるから毎日続けられそうだな。
- 次の課題を持つ。

お兄ちゃんとはくらの筋肉のつき方の違いについて調べてみたいな。

☆4年学活「規則正しい生活をしよう」

A児の活動元気なおじいちゃんに関連自分の生活リズムを再調査し、祖父の一日の生活と比較させた。内容や時間的なことだけではなく、ストレスにも目を向け始めたので「精神的な健康」という観点からも考えるように助言した。

☆5・6年家庭科

「生活時間の有効な使い方」に発展自分と祖父の余暇の使い方に注目させるようにした。



☆3・4年体育

「自己の能力に適した技」に関連生活全般を振り返る中で外遊びの時間の少なさに気がついたB児には、兄について取材することを勧め、スポーツのよさに関心が向くようにした。

D児の活動 丈夫になったほく

- 少年野球を始めた経緯について振り返る。
 - ・体を鍛えたいと思って、自分から始めたよ。
 - ・練習は厳しいけれどもずっと続けていきたい。
 - ・家に帰ると、家族から「喘息は出なかったか。」と聞かれるよ。
- 丈夫になったほくについて家族に取材をする。
 - ・生後6ヶ月から喘息の発作が起こるようになったことやチアノーゼを起こして入院したことなどを家族から聞いて、びっくりしたよ。
 - ・今も梅雨時の夜は、セキが出る時があるよ。
 - ・インターネットで喘息について調べてみよう。
 - ・葉のメブチンについても調べてみよう。
- 調べた内容でできることを実践してみる。
 - ・アレルギー源がわかっているから、家族にも伝えたいよ。
 - ・ほこり対策を続けているよ。
- 次の課題を持つ。

野球を始めたことで、喘息にいいことがあるのかな。トレーニングはどんなものがあるのかな。

E児の活動 牛乳は体にいいってほんと？

- 牛乳が体にいいわけを調べる。
 - ・本やインターネットを使って牛乳について調べよう。
 - ・お母さんが「牛乳をのみなさい。」って言うのはどうしてだろう。
- 調べてわかったことをまとめよう。

<糖質>	腸の働きを整える。
<カルシウム>	骨や歯をつくる。
<ビタミン>	目の健康。食欲がわく。
<たんぱく質>	血や肉、皮膚や髪の毛の栄養。
<脂質>	エネルギー源

こんなにたくさんの働きがあるなんて初めて知ったよ。
- 次の課題を持つ。

牛乳の栄養について看護師のお母さんからもっと詳しく教えてもらいたいな。

☆3・4年体育

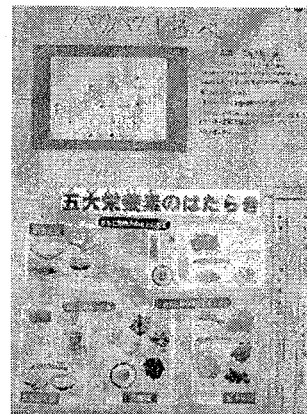
「自己の能力に適した技」に関連喘息がスポーツによって改善されてきているD児には、自分の体力に合った運動を継続することの効果について気づかせるため家族やコーチへの取材を勧めた。

☆4年道徳「家族愛」に関連

D児に対する家族の思いを気づかせるため幼い頃の様子や、これからの願いについて母親に手紙を書いてもらった。

☆5・6年家庭科

「日常の食事に関心を持つに発展牛乳をよく飲むことから牛乳について調べてみたいと思っているE児には、興味を持っているインターネットを利用し、情報を集めることを勧めた。また、養護教諭から児童向けの栄養に関する本を紹介してもらい、日常の食事の中での牛乳の役割にも関心を深めていった。



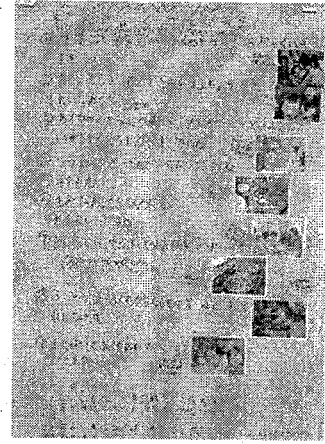
F 児の活動 体によい食べ物について

- 大好きな祖母の健康法について調べる。
 - ・ 毎日の散歩, お風呂の中の体操。
 - ・ 食事療法。
- 祖母と私の好きなおかずについて調べる。
 - 〈祖母〉 ①アジの塩焼き ②ゆでた鶏肉 ③鶏肉ご飯
 - 〈私〉 ①豆腐ハンバーグ ②ミートソーススパゲティー ③卵焼き
 - ・ おばあちゃんのお気に入りの料理は, 油を使うものがないね。
- 次の課題を持つ。

おばあちゃんのお気に入りの料理は体によいかどうか確かめてみたい。

☆5・6年家庭科

「調和のよい食事のとり方」に発展
祖母と自分の好きなおかずを比較させることで, 素材や味付け・調味料の違いに目が向いていった。配膳室にある食品成分表を使い, それぞれの食品の持つ役割にも気づかせていった。



7月～ 調べたらいろいろなことがわかってきたよ。自分たちの調べた家族の健康法は本当に効果があるのかな……。看護師のPさんに聞いてみようよ。

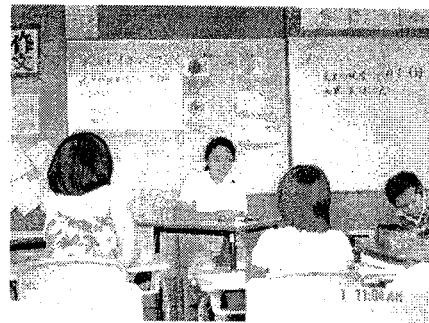
スポーツをすることで循環器系が鍛えられていると思います。発作が起きたら, 冷たい水を飲むとよいですよ。

腕立て伏せや腹筋を継続することで, 筋肉が鍛えられていきます。体重の変化についてもお兄ちゃんに聞いてみたらどう?

午睡は食事の消化を助けます。また, 時間をかけて食事をとっていますね。たいへんよいこと。

おばあちゃんはコレステロールの少ないものを食べていますね。血液がサラサラになります。Fちゃんの好きな食べ物には成長に欠かせない栄養が含まれています。どちらの食事がよいということではないですよ。

牛乳には, 成長期のみなさんにとっても大切な栄養素が含まれています。カルシウムと一緒にとると効果が上がる栄養素は何か知っていますか?



わかったことをまとめよう。

9月～ <調べていこう part II ぼく わたしの“神余生き生き宣言” ⑨>

「すこやかクラブ」「世代間交流会(土曜日開催)」について関心をもった児童が多いためA児以外にも自主的に参加してもよいことを伝えた。

※Pは学習パートナー

A児の活動 スローフードってなに?

- 地域で収穫できる野菜がたくさんあることに気づく。
 - ・もうすぐ稲刈り……。去年も地域のPさんに手伝ってもらって稲刈りをしたよ。稲の他にも神余でとれる食べ物がいっぱいあるよ。
- 「すこやかクラブ」の活動に関心を持つ。
 - ・JAの支店長さんから「世代間交流会」に参加しないか聞かれたよ。会には神余でとれた野菜を使って「すこやかクラブ」の人がお弁当を作って出すんだって。
 - ・「すこやかクラブ」っておじいちゃんから聞いたことがあるよ。
- 「すこやかクラブ」の取材をする。
 - ・「すこやかクラブ」の人を取材してみたいな。
 - ・誰がやっているの、いつ頃から、何のために、どんな活動をしているんですか?
 - ・「すこやかクラブ」では地域でとれた野菜を使ってスローフードを作って、それを伝えていこうという活動をしているんだね。
 - ・私たちも一緒に「神余世代間交流会」のお弁当作りをしたいな。
- 「すこやかクラブ」の方と一緒にスローフードを作り「世代間交流会」に参加する。
 - ・準備していくものを聞いてみよう。
 - ・100食もつくるんだ。かぼちゃサラダや煮しめ、からなます……。おいしそうだな。聞いたことのない料理もあるよ、早く作ってみたいな。
 - ・色もきれいだし、こんなにたくさんの野菜が神余にはあるんだな。頑張るよ。
 - ・「世代間交流会」では「すこやかクラブ」について取材したこと、お弁当作りについてみんなで発表したよ。
- お礼の手紙を書く。
 - ・「すこやかクラブ」の人はてきぱきとしていました。料理に油を使っていませんでした。
 - ・みんな手作りですごいなと思いました。また来年も一緒に作りたいです。

スローフードについて もっと
知りたいな。

☆5・6年家庭科「食品の栄養的な特徴」

「日常の食事に関心を持つ」に発展
スローフードのよさを「すこやかクラブ」の方
から話してもらったり、一緒に作ったりするこ
とを通して、理解を深めていくようにした。

☆4年道徳「郷土愛」に関連

地域に根ざした活動取材したり、体験したり
することを通して、地域の人の願いに気づき地
域を見つめさせるようにした。



B児の活動 タバコの害って

- たばこを吸う人を取材する。
 - ・体に悪いことは知っているけど、なかなかやめられないんだって。どうしてかなあ。
- たばこについて調べてみよう。
 - ・保健の小宮先生にどうやって調べたらよいか、相談にのってもらおう。たばこのことが書いてある本があったら貸してください。
 - ・たばこの煙 ・たばこの正体 ・たばこ病
 - ・子どもがたばこを吸うと・・・。

たばこはこわいって
わかってきたぞ。

C児の活動 間食は子どものエネルギー

- 食事のとり方について振り返ろう。
 - ・どんな食事をしているかな。1週間調べてみよう。
 - ・体の調子を整えるもの・熱や力になるものや血や肉になるものにわけられるんだね。私はバランスよくたべているかな。色別にしてグラフにしてみよう。
 - ・それぞれ12回、11回、13回とっているよ。なんかバランスがいいみたい。もっと勉強していきたいな。

おやつについても調べて
みたいな。

D児の活動 ジョギングと骨・関節

- 喘息を克服してきた自分を振り返る。
- 少年野球のトレーニングを想起する。
 - ・よく柔軟体操をしているよ。
 - ・ランニングもよくやってるよ。
- 「神余走ろう会」の人を取材する。
 - ・Fちゃんのお父さんは「走ろう会」に入っているんだって。話を聞いてみたいな。
 - ・運動不足だったから走り始めたんだって。
 - ・仲間もいるし、太らないって教えてくれたよ。

もっとジョギングについて
調べてみたいな。

☆5・6年保健「喫煙は健康を損なう原因となること」に発展
たばこの害に関心を持ち、家族が健康であってほしいと願うB児には、養護教諭と一緒に相談にのった。各種資料の紹介や内容の補足を随時してもらえるようにした。また、禁煙教育につながるようにB児の学習の進捗を見ながら「来年の予習になるよ。」等学習意欲を大切に助言を心がけた。

☆5・6年家庭科「調和のよい食事のとりかた」に発展
食事に対して関心を深めていくためにまず自分の食生活を振り返って助言した。また、この学習は家庭での調査が主となるので、母親ともねらい等を話し合い、学習の進捗を随時確認した。



☆3・4年体育

「適切な運動」に関連

適切な運動を続けることの有効性について「神余走ろう会」の方の取材を通し、理解を深めていけるようにした。身体面と精神面での健康という観点から話してもらおうようにし、D児が自分の健康増進のために適切な運動を継続していく意欲を高めていけるように支援した。

E児の活動 おばあちゃんは天才シェフ

○ 手作り惣菜の店を出している祖母について取材する。

- ・地域を歩き、季節の様子に関心を持つ。
- ・おばあちゃんは畑で育てた野菜を使っておかずを作っているよ。
- ・味噌もあんこもみんな手作りだよ。
- ・安全でおいしいものを作ってみんなに喜んでもらいたいって言ってたよ。

○ 祖母と一緒に食ごよみをつくる。

- ・いまの季節はどんなおかずができるのかな。おばあちゃん教えて。

おばあちゃんと一緒に何か料理してみたいな。

F児の活動 冬にかぜがはやるわけ

○ かぜの流行の様子を振り返る。

- ・毎年冬になるとかぜをひいちゃうのはどうしてだろう。去年はおばあちゃんにもうつしちゃったな。

○ かぜについて調べる。

- ・ウィルス、熱、体の痛みについてわかってきたよ。

○ かぜの予防法について考える。

- ・うがい、手洗い、汗を拭く、よく寝る……。他にもかぜにかからないために何かあるかな。
- ・保健の小宮先生に相談してみよう。

調べた予防法は、効果があるのかな。

☆5・6年家庭科

「日常の食事に関心をもつ」に発展地域素材を使った惣菜作りを得意とする祖母と学習をすることを通し、日常の食事に関心を持たせるようにした。

食ごよみの作製では、食材に目を向けさせ、時季によって収穫できるものを活用していることに気づかせていった。

☆4年理科「季節といきもの」に関連

地域を歩いたり、レイシの栽培・観察をしたりして、植物の成長に関心を深めていった。

☆4年学活「かぜの予防」に関連

ウェビングから「かぜ」について学習していきたいと考えたF児には、本やインターネットでの情報収集や、家族への取材を勧めた。わからないことがあった時は相談にのり、養護教諭と共に本や「小学保健ニュース」等を用意し支援した。



4 考察

- ・児童たちは、昨年度のかがやき学習でたくさんの学習パートナーと年間を通して「米作り」にかかわっている。「地域を見つめ、地域とともに生きる子ども」という観点からは交流への関心も高く、人とのかかわり方も理解してきている。更に、その場に応じたコミュニケーション能力の育成のため、相手に合った言葉遣いや声量・内容を整理してわかりやすく伝えることなどについて考えさせていきたい。
- ・健康をテーマに教科との関連を考える時、児童のこれまでの経験や関心によって支援の方法が違ってくる。特に家庭科へ発展する内容なので、来年度からの学習に期待を持たせるように支援者が意識し、学習を進めていくようにした。
- ・少人数を活かし、それぞれがテーマにそって学習パートナーとかかわることは、自分の興味のあるテーマを追求したり、わからないことにじっくりと取り組ませたりすることにつながった。
- ・学習パートナーとの連携では連絡を適宜とり合い、打ち合わせ時間等を調整していく必要がある。